

# 上下水道事業の財政事情

閩経営総務課 ☎・☎(582)1136 ☎(582)5780

## ◎水道事業

平成30年度

### 決算状況

給水量は866万<sup>m</sup>で、前年度に比べ3千<sup>m</sup>減、給水人口は83、229人で前年度に比べ550人増となりました。

### 財政収支

収益全体では、給水収益が減少したことなどにより、前年度に比べ総額で610万円収入減の15億277万円でした。

費用全体では、受水量の減少などにより、前年度に比べ総額で4、833万円の支出減となり、14億41万円となりました。

この結果、当年度の収支は1億236万円の純利益となりました。

資本的収支については、企業債の発行や耐震化事業に係る国庫補助金の収入などで収入額が1億2、178万円、支出額が4億8、943万円となりました。

なお、3億6、765万円の収支不足額については、過年度損益勘定留保資金などで補填しました。

### 令和元年度上半期業務状況

給水量や新規加入金は増加しましたが、受託工事収益などの減少により、収益全体では前年同期に比べ609万円減の7億4、364万円となりました。また、費用全体では、前年同期と比べ1、556万円減の6億49万円となりました。この結果、当期の純利益は1億4、315万円となりました。

なお、上半期に比べ下半期に支出が集中するため、最終決算では当期純利益は減少する見込みです。

#### 用語解説

- ・給水量 水道メーターで量った実際に使われた水の量
- ・受水量 県などから購入する水の量
- ・純利益 事業全体の利益に臨時的な特別利益や特別損失を差し引いた最終的な利益
- ・資本的収支 施設の建設費や企業債に関する収入と支出
- ・企業債 地方公営企業が行う施設の建設改良などに要する資金に充てるために起こす地方債
- ・損益勘定留保資金 現金の支出を必要としない費用(減価却費など)の計上により、企業内部に留保される資金

## ◎下水道事業

平成30年度

### 決算状況

総排水量は1、081万<sup>m</sup>で前年度に比べ6、000<sup>m</sup>増、当年度末の処理区域内人口は7万9、444人で、前年度に比べ560人増となりました。

### 財政収支

収益全体では、20億4、129万円(うち下水道使用料収益が13億7、645万円)となりました。

費用全体では、20億2、880万円となり、当年度純利益は1、249万円の当年度純利益となりました。

また、資本的収支については、企業債の発行や、耐震化事業に係る国庫補助金の収入などで収入額が8億2、384万円、支出額が15億9、495万

円でした。収支不足額7億7、111万円については、過年度損益勘定留保資金などで補填しました。

### 令和元年度上半期業務状況

収益全体では11億2、642万円(営業収益が8億1、582万円、営業外収益が3億1、060万円)でした。

費用全体では、9億649万円(営業費用は7億8、111万円、営業外費用は1億2、538万円)で、当期の純利益は2億1、993万円でした。

なお、上半期よりも下半期の方に支出が集中するため、最終決算では上半期よりも当期純利益は減少する見込みです。

#### 用語解説

- ・営業収益 営業活動で生じる収益(使用料収益など)
  - ・営業外収益 営業活動以外で生じる収益(受取利息など)
- ※純利益、資本的収支、企業債、損益勘定留保資金については上記に記載

